

技術士と日本技術士会の 防災支援活動

令和3年3月18日

(公社)日本技術士会

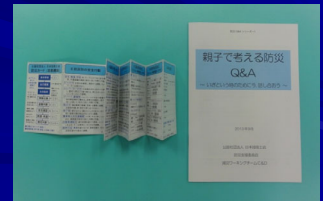
防災支援委員会 元委員長 上野 雄一

1. 技術士会の防災・減災支援活動

大災害時に自分や家族が生き残ることが復旧復興につながる、と考える。

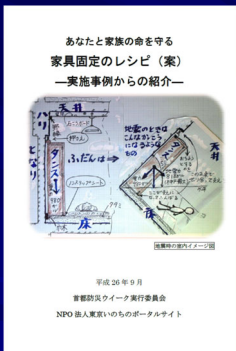
①「生き残るための防災・減災活動」への 情報提供

冊子類の作成、配布



防災カード と 親子で考える防災Q&A

①「生き残るための減災活動」への情報提供 冊子類の作成、配布



家具固定のレシピ

①「生き残るための減災活動」への情報提供 冊子類の作成、配布



減災技術豆知識

①「生き残るための減災活動」への情報提供 イベント等での防災減災情報の広報



横浜震災対策技術展での
無料「防災よろず相談所」

専門家が防災・減災の疑問や不安に答える。



首都防災ウィークでの
「防災クイズラリー」

クイズを楽しみながら、防災情報を学習する。

②「生き残るための減災活動」への現場支援 広報だけでなく、現場での実践も重要と考える。



防災訓練の支援



防災出前講座

企画段階から参画し、当日は補佐要員や講師として現地活動を支援している。

②「生き残るための減災活動」への現場支援 減災まち歩き点検の支援



実際のまち歩き



防災マップづくり

企画段階から参画し、当日は講師として現場活動を指導、支援している。

7

2. 技術士会の減災支援活動の事例

減災まち歩き点検 「逃げ地図」の作成

8

「減災まち歩き」の目的とは



わがまち点検！

- 1 地震・洪水などの自然災害によって、地域のまちがどのような状況になるか**イメージ（想像）**する。
- 2 普段何気なく見落としているまちの危険なもの（**問題モノ**）と、避難に役に立つもの（**安全モノ**）を意識して探し確認する。
- 3 **地区防災計画**の基本資料となる。

9

「減災まち歩き」の効果とは



- 1 まちの特徴がわかり、まちに愛着を持つようになる
- 2 地域住民が一緒に歩くことにより「自分たちのまちは自分たちで守る」という意識が高まる
- 3 なにげなく歩いていると気づかない**問題モノ・安全モノ**に気づかされる

10

減災まち歩きの方法

11

テキスト

「地震減災マップ作成ガイドブック」

平成26年7月

地震減災マップ作成ガイドブック

—まち歩きによる地震災害に備えた 減災避難ルート等のチェックポイント—

第1.2版
平成26年7月

公益社団法人 日本技術士会
防災支援委員会
減災技術ワーキングチームA

12

防災まち歩きの方法

ステップ 0 : 事前準備

ステップ 1 : 事前説明

ステップ 2 : まち歩き

ステップ 3 : マップ作成

ステップ 4 : 発表

ステップ 5 : 講評、まとめ



13

ステップ0 事前準備



役割分担の必要人数・経路などを検討します。

14

事例 1

ステップ1 事前説明



参加者に概要を説明します。

15

ステップ2 まち歩き



実際にまちを歩いて、安全モノ、問題モノを確認します。

16

安全モノとは避難の時、助けになるもの

- 1 避難場所・施設、公園、公共施設（消防署、警察）、駐車場などのオープンスペース
- 2 水道消火栓、消火器、貯水槽、担架、AED、公衆電話
- 3 災害備蓄倉庫、防災機材格納庫、病院、コンビニ

※防災マップに乗っていない防災施設の事前調査



17

安全モノの例



18

安全モノの例



19

問題モノとは避難の時、支障になるもの

1. 倒壊・転倒しそうなもの、火災が起こるもの
⇒柱で浮かせた建物、移動看板、傾いた電柱、亀裂の多い擁壁、木造家屋の密集地、可燃物の集積など
2. 避難・救助の障害になる場所
⇒狭い道路、自転車・車の違法駐車、道路不法占拠物など
長い坂道、急な坂道、道路の段差
3. 落下、飛散、転倒するもの
⇒ブロック塀、壁タイル、室外機、窓ガラス、トランス、張り出し看板、門柱、塀の上の植木鉢、高い煙突など

個人の財産に関わる配慮から「危険モノ」と言わない。²⁰

問題モノの例

どこに危なさが隠れているでしょう？

壁に取り付けた看板の異常

固定されていない看板



21

問題モノの例



22

問題モノの例

段ボールの留置



23

問題モノの例

擁壁の亀裂



亀裂が連続しており、地震時に倒壊が危惧される

24

ステップ3 マップ作成



安全モノ、問題モノの場所を、皆で出し合って
マップに貼っていきます。

25

ステップ3 マップ作成



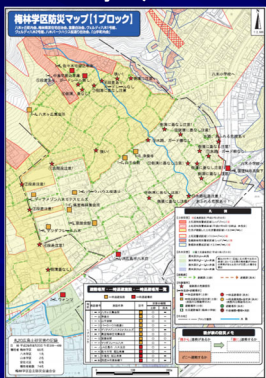
付箋をはったままのマップです。

26

最終的には、印刷物にして配布します。

オモテ

ウラ



27

ステップ4 発表



発表することで自班、他班の状況を知ることができます。

29

ステップ5 講評、まとめ



技術士は技術的な側面も解説しながら講評し、
質問に答えています。

29

<参考>

減災マップは地区防災計画の基本資料となります。

まち歩き点検による減災マップにより、住民一人一人が避難所までの安全ルートを検討することができます。

このマップに、それぞれの地区における避難所の運営マニュアルを加えただけでも、その地区の「地区防災計画」とすることができます。

30

3. 減災活動での課題

1. 大災害を身近なものとしてとらえていない住民が多い。
2. 防災情報の入手方法、判断方法(避難のタイミング)を知らない人、理解していない人が多い。
3. セミナー・展示会への参加者に若年層が少ないなど年齢構成に偏りがある。



地道に辛抱強く活動を展開していくしかないと考えます。

31

終

32